

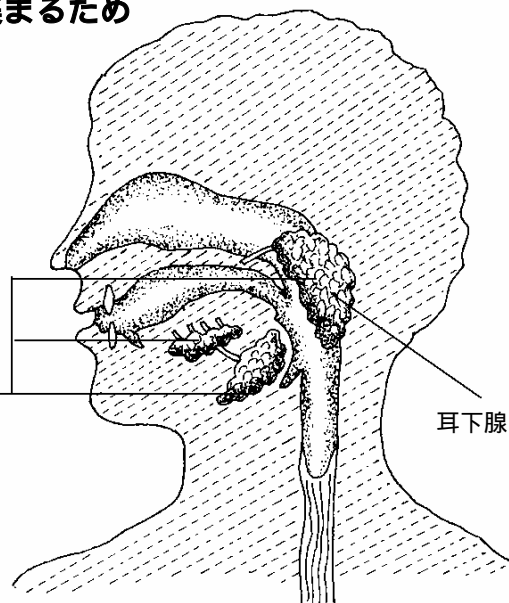


## 「おたふくかぜ」は、なぜほっぺたがふくらむの

耳下腺じかせんに入ったばい菌はいきんと戦たたかうために、血液けつえきが集あつまるため

「おたふくかぜ」は、耳みみの少し下すこしたのところに、耳下腺じかせんという、つばをつくったり出したりするところに、ばい菌はいきんが入はいって、はれてしまう病びょうき気で、正式せいしきには、「流行性りゅうこうせい耳下腺炎じかせんえん」といいます。

「おたふくかぜ」のばい菌きんが体からだに入はいると、多くの血液けつえきが、ばい菌きんと戦たたかうために、そこにだ液腺集あつまります。そのため、赤あかくはれたり、熱ねつを出だしたりして、ほっぺたがふくらむのです。



### 「おたふくかぜ」になると

「おたふくかぜ」は、ばい菌きん（ウイルス）が、つばなどといっしょに、口くちから口くちへ飛とんで、病びょうき気がうつっていく伝でん染せん病びょうです。

「おたふくかぜ」のばい菌きんが体からだに入はいると、2～3週間しゅうかんで熱ねつが出て、食たべ物ものをかむと、耳みみのまわりが痛いたくなったり、気き分ぶんが悪わるくなったりします。そして、まかたず片ほう方のほっぺたがはれて、1～2日かたほうくらいで、もう片かたほう方のほっぺたが、はれてくることもあります。

「おたふくかぜ」は、2週間しゅうかんくらい続つづいたあと、なおります。そして、一いちど度かかると、もう、かかよることはありませよぼうちゅうしゃん。また、予う防注射があるのうで、それを打うっておくと、かかうらないですみます。（監修・保志 宏）

